

最大の掟

マルコによる福音 12:28 b-34

(そのとき、一人の律法学者が進み出て、イエスに尋ねた。)「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

説教

福音書はロードストーリー仕立てになっているともいえます。先週まではイエスがエルサレムに向かう道中での出来事でした。きょうはエルサレムに到着しての出来事が記録されています。

イエスはエルサレムで律法学者たちと五つの論争をしました。きょうの「最大の掟」はこの論争の最後になります。そして「神を愛し、隣人を愛せ」とイエスも律法学者も双方ともに合意しました。でも、これでめでたし、めでたしとはいきませんでした。ルールは同じでも目指すゴールが違うからかもしれない。

律法学者のゴールは救いであり永遠のいのちです。みんながみんなルール(律法)を守りゴールを目指すのが彼ら律法学者たちの願いだとすると、イ

イエスは時には律法を破るし食事の前に手を洗わないやからと食卓を共にします。律法学者からすれば掟破りとなります。律法を守ることができなければ救いはない、そんなやからが永遠のいのちにあずかることができるものか、自分の努力にたより律法を必死に守っている学者たちはこう考えています。イエスの律法に対する考え方はこうかもしれません。

律法は守るものではなく、律法は生きるもの。「律法を**守**る」のではなく、「律法に**生**きる」こと「律法を」と「律法に」の違いですが、この違いはおおきい。

イエスは律法を守りたくても守れない人々に目を向けます。そして、そういう人々に律法に生きよと呼びかけています。「神を愛し、隣人を愛せ」という最大の掟は生きているすべての人々のために与えられています。わたしたちがイエスの呼びかけに喜びをもって答えることができますように。

祈り

神のいつくしみに感謝し、信頼をこめて祈りましょう。

- ・主イエスが示された神の愛に、わたしたちが感謝をもってこたえ、思いやる心で人々に接していくことができますように。
- ・多様な民族が交わる世界の中で、互いの理解と尊敬が深められ、一人ひとりのいのちの輝きを大切に育てることができますように。
- ・疎外感や孤立感の中で苦しむ人の心に希望の光を注いでください。人との出会いが力となり、そのつながりによって支えられますように。
- ・（あなたに必要な祈りを追加してお祈りしてください）

神よ、愛し合う心をわたしたちに。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン